

都心での子連れ来街者の回遊特性に関する研究 ～福岡市天神地区を対象として～

辰巳 浩¹・吉城 秀治²・堤 香代子³

¹正会員 福岡大学教授 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1)
E-mail: tatsumi@fukuoka-u.ac.jp

²正会員 福岡大学助教 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1)
E-mail: syoshiki@fukuoka-u.ac.jp

³正会員 福岡大学助教 工学部社会デザイン工学科 (〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1)
E-mail: kayoko@fukuoka-u.ac.jp

誰もが楽しく快適に回遊できる中心市街地の創出は、都心の活性化に向けて重要な検討事項である。とりわけ少子化対策が喫緊の課題となっている我が国においては、子連れであっても回遊しやすい中心市街地を整備していく必要がある。そこで本研究では、福岡市の天神地区を来街した人を対象として行ったアンケート調査を基に子連れ来街者と一般来街者の回遊行動の比較から、子連れ来街者の回遊特性を明らかにした。

その結果、子連れ来街者と一般来街者では回遊行動の違いが見られ、来街手段から来街時間、目的、地区で訪れるエリアまで異なっていることが明らかになった。また、子連れ来街者の方が回遊に対する満足度が低く、特に子供向けの娯楽や休憩施設の少なさに対する不満が見られている。

Key Words : *child rearing, city center, excursion behavior*

1. はじめに

誰もが楽しく快適に回遊できる中心市街地の創出は、都心の活性化に向けて重要な検討事項である。とりわけ少子化対策が喫緊の課題となっている我が国においては、子連れであっても都心に訪れやすい交通環境を整備していくとともに、都心に訪れてからも回遊しやすい中心市街地を整備していく必要があるものと考えられる。

そこで近年では子連れを対象とした研究が行われつつある。特に交通面からアプローチした研究が多く見られ、乳幼児連れの外出行動の実態を明らかにした研究¹⁾や、外出実態とバリアに対する意識を明らかにした研究²⁾、公共交通等におけるベビーカー利用者に関する意識を明らかにした研究³⁾などが行われている。

しかし、これらのように子連れの交通環境の改善に資する研究が見られる一方で、子連れの都市環境の改善に資する研究は殆ど行われていない。子供を連れていて一般の来街者と回遊行動が大きく異なることが想定されるものの、その実態すら十分には明らかにされていない状況にある。

そこで本研究では、子連れ来街者と一般来街者の回遊行動の比較を通じて、子連れ来街者の回遊特性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要と子連れ来街者の定義

(1) 調査対象地域について

本研究で対象とした天神地区(福岡市中央区)は、百貨店、銀行などの商業・業務機能が集中し、交通結節機能を備え、博多駅周辺とともに九州の中核拠点として発展している⁴⁾。なお、本研究での天神地区とは、住所が福岡市中央区天神であるエリアを中心に、近年若者向けの店舗の出店が相次ぐ天神西通りを含むエリアとしている。対象地区の概略図を図-1に示す。

(2) アンケート調査について

本研究では、2014年9月20日(土)、21日(日)、27日(土)にアンケート調査を実施した。天神地区各所において来街者に対して調査票を直接配布し、後日郵送回

収している。子連れ来街者（小学生程度までの子供連れ）と一般来街者（子連れ来街者以外）に対して計 4,000部を配布し、738部回収できている（回収率18.5%）。回答者には、主に個人属性、調査票を受け取った日の回遊行動（訪問場所、目的、滞在時間等）、天神地区以外で子供とよく行く場所（子供がいる回答者のみ）を尋ねている。調査概要を表-1に示す。

(3) 子連れ来街者の定義

本研究では、子連れ来街者の回遊特性を明らかにすることを目的としているため、アンケート調査票を受け取った日に実際に小学生以下の子供と一緒に天神地区に訪れた回答者を子連れ来街者と定義する。来街時の同行者について尋ねた結果を図-2に示す。図より、最も多く回

答があったのが同行者なしで一人で来街した回答者であり、次いで配偶者・パートナーと来街した回答者、小学生以下子連れ家族での来街者の順となっている。そしてこの「小学生以下子連れ家族」を子連れ来街者とし、それ以外を一般来街者と分類した。

ところで子連れ来街者は、子供を連れてきているといった特徴に加えて、年齢層が比較的若いことも特徴として挙げられる。すなわち、子連れ来街者において示された回遊行動が、子連れであるからこそその行動であるのか、回答者の年齢が比較的若いことによる行動であるのかを分けて理解する必要がある。そこで、一般来街者のサンプルを年齢層に応じて分類し、子連れ世代と比較的近い年齢層を抽出することとした。まず、子連れ来街者と一般来街者の年齢層について尋ねた結果を図-3に示す。図より、子連れ来街者は39歳以下と40-49歳の回答者で全体の8割以上を占めており、一部50-59歳、60-69歳の回答者が見られるが70歳以上の回答者は見られない。一方、一般来街者については各年齢層から偏りなくサンプリングできている。そして一般来街者を、子連れ来街者の8割以上を占める年齢層である39歳以下・40-49歳のグループ（以下、図表中では“一般_49歳以下”と示す）、子連れ来街者にも一部見られるものの子連れで来街する世代よりもやや年齢層が高い50-59歳・60-69歳のグループ（一般_50-69歳）、子連れ来街者には見られない70歳以上のグループ（一般_70歳以上）の3グループに分類している。そして、子連れ来街者並びに49歳以下の一般来街

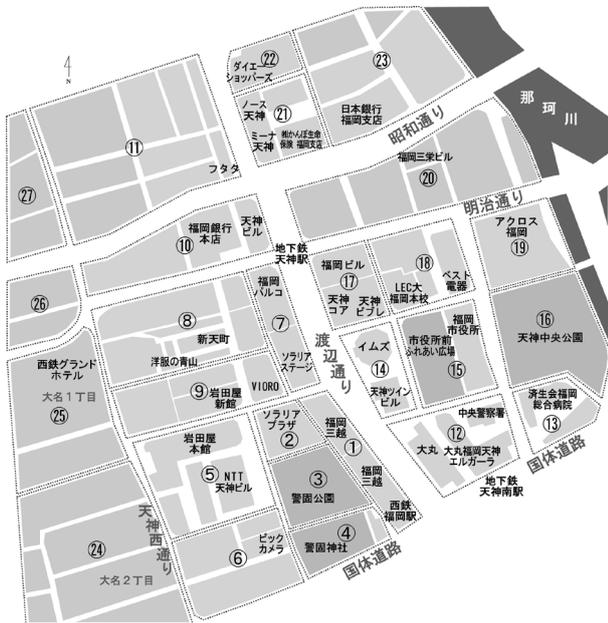


図-1 天神地区（丸数字は後述のエリア番号）

表-1 アンケート調査の概要

調査概要	配布日	平成 26 年 9 月 20 日(土)、21 日(日)、27 日(土)
	配布・回収方法	無作為配布・郵送回収
	配布場所	福岡市天神（パルコ前、ライオン広場、エルガーラ前地下街）
	配布部数	各地点 1,000 部で合計 4,000 部
	回収部数、回収率	738 部、18.5%
調査内容	個人属性	性別、年齢、職業、子供の有無、来街頻度等
	（調査票を受け取った日の）天神地区での回遊行動	交通手段、同行者の属性と人数、到着時刻と出た時刻、天神地区から出るまでに訪れたエリアとその順番、各エリアの訪問目的・滞在時間・消費金額、天神地区での満足度等
	天神地区以外で子供とよく行く場所	子供を連れて行く場所、そこを選ぶ理由、交通手段

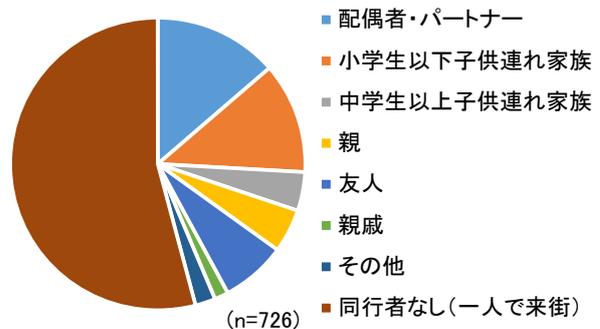
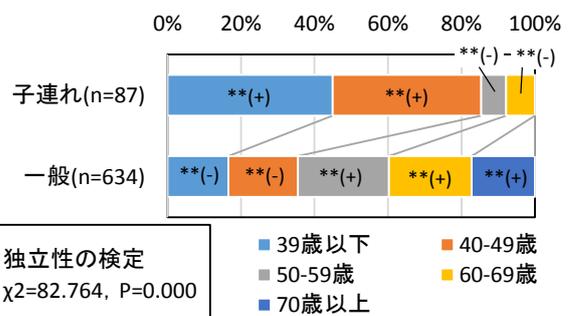


図-2 天神地区への同行者



独立性的検定
 $\chi^2=82.764, P=0.000$

残差分析: **有意水準1% *5% (+)選択率が高い (-)低い

図-3 子連れ来街者と一般来街者の年齢層

者ともに類似した傾向を示した回遊行動については年齢による回遊特性であると判断し、子連れ来街者と49歳以下の一般来街者で異なった傾向を示した回遊行動については子連れ来街者による回遊特性であると判断した。

3. 子連れ来街者と一般来街者の回遊行動の比較

(1) 来街について

まず、普段の天神地区への来街頻度について尋ねた結果を図-4に示す。年齢層が低くなるほど来街頻度が低下している傾向にあるが、残差分析の結果、特に子連れ来街者の頻度が少なくなっている。

次いで、来街手段について尋ねた結果を図-5に示す。独立性の検定の結果、グループによって来街手段に差が見られている。特に子連れは自家用車の割合が高くなっている一方で、バスの割合が低くなっていることが来街手段の特徴となっている。

さらに、天神地区への到着時間並びに出発時間について尋ねた結果をそれぞれ図-6、図-7に示す。天神地区への到着時間については統計的な有意差は見られなかつ

たものの、子連れとそれ以外でピークが異なっている傾向にあり、特に子連れ来街者のほうがピーク時間帯が1時間遅くなっている。一方、天神地区からの出発時間については統計的な有意差が見られ、子連れについては14時台が最も多くなっているが、一般来街者については年齢層を問わず際立ったピーク時間帯は見られない。

また、この到着時間と出発時間から算出した天神地区での滞在時間を図-8に示す。図より、子連れについては滞在時間が3~4時間であった回答者が最も多くなっていた。一方で一般来街者については年齢層が低い来街者ほど滞在時間が長くなる傾向にあり、特に子連れ来街者と同年齢層の49歳以下のグループにおいては、6時間以上との回答割合が高くなっている。子連れ来街者についても同様のニーズがあるものと考えられるが、子供を連

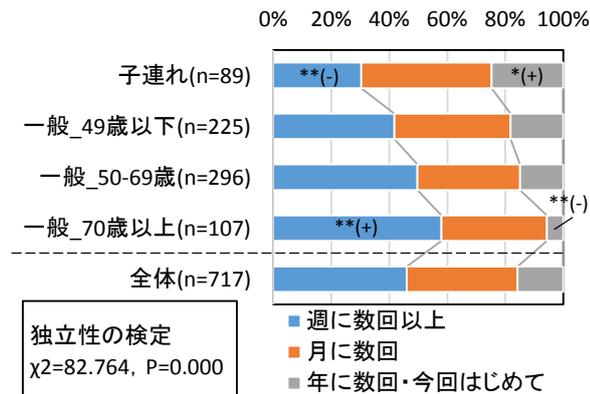


図-4 天神地区への来街頻度

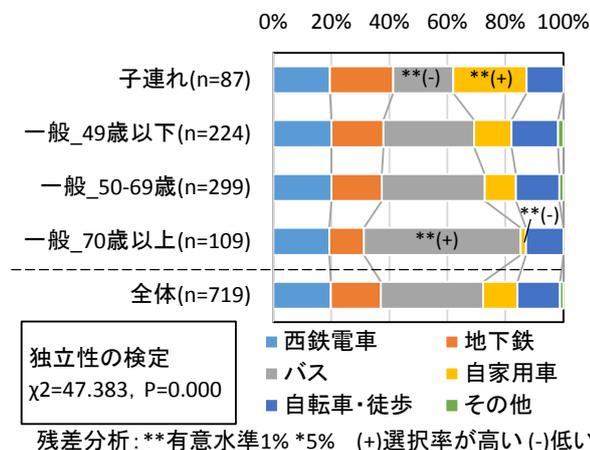


図-5 天神地区への来街手段

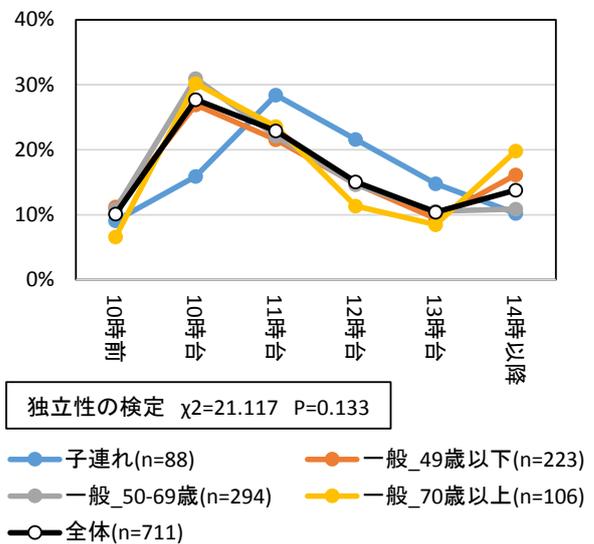


図-6 天神地区への到着時間

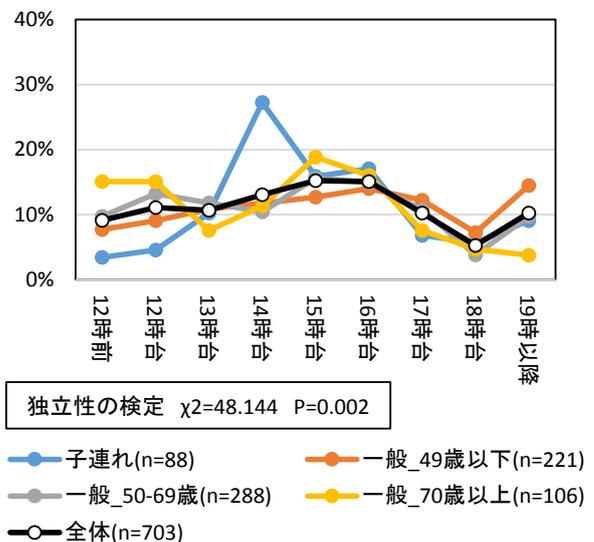


図-7 天神地区からの出発時間

れて来街しているため滞在時間を3~4時間程度にしている結果であると考えられる。

(2) 回遊について

天神地区において訪れた場所の数(回遊数)について集計した結果を図-9に示す。図より、どの層も平均で約3箇所訪れており、また統計的な有意差も見られない。

次いで、各グループが具体的にどのような回遊をしているのかを明らかにする。先の集計結果より回遊数の平均がどのグループも約3箇所であったことを考慮して、丁度3箇所の回遊があったサンプルを抽出した。そして、各箇所の訪問目的を回遊順序別に整理した結果を表-2に示す(ただし、全グループを通じて殆ど選択のなかった観光、業務目的とその他は除く)。なお、回遊先を訪れた目的は複数回答形式で尋ねており、表中の値は選択率となっている。表より、1箇所目についてはどのグループも買い物目的の選択率が高くなっており、グループの違いによる統計的な有意差も見られない。一方で、2箇所目においては選択の程度に有意差が見られており、特に子連れ来街者において買い物目的の選択率が低くなっている反面、娯楽目的が高くなっていった。また3箇所目

においても有意差が見られており、子連れにおいて娯楽目的や休憩目的の選択率が高くなっている。これは子供を連れて回遊しているため、子供に配慮した回遊をしているものと考えられる。

そして、この回遊目的が異なっていることで、子連れ来街者と一般来街者では回遊先が異なってくるものと考えられる。そこで本研究では施設の立地状況や住所を考慮して天神地区を27エリアに分割し(図-2参照)、回遊したエリアを全て尋ねた。そして、各グループ別に訪れたエリアの選択率を算出しているが、まず図-10に全サンプルによるエリアの選択率を示す。そして、グループによって選択の程度に統計的な有意差が見られたエリアについては、各グループの選択率と残差分析を行った結果を表-3に示す。全体で最も選択率が高かったのは福岡三越のあるエリア番号1であり、全来街者のうち43%がこのエリアを訪れている。次いで多くなっているのが福岡大丸のあるエリア番号12であり、次いで福岡パルコやソラリアステージといった大型商業施設のあるエリア番号7であった。そして残差分析を行った結果に着目すると、まず公園のあるエリア番号3の子連れ来街者の選択率が高くなっている一方で、49歳以下の一般来街者の選択率については統計的に高くはなっていないことがわかる。この結果は、公園は娯楽や休憩目的で子連れであるからこそ訪れている場所であることを示した結果と考えられる。次に、エリア番号6の大型家電量販店や近年若者向けの店舗の出店が相次ぐ天神西通りの沿線を含むエリアについては、49歳以下の一般来街者の選択率が高い一方で子連れ来街者の選択率は統計的には高くない。これは、エリア番号6に接する天神西通りは人通りや自動

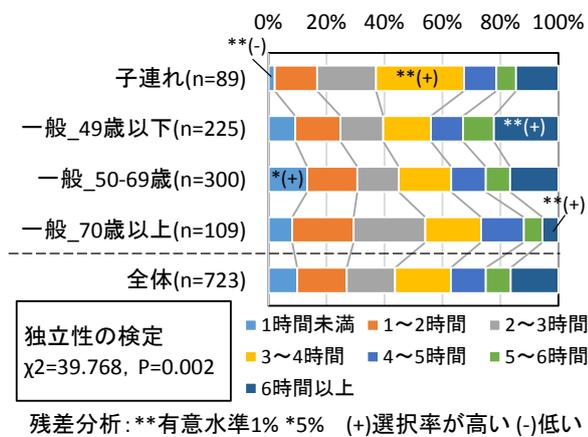


図-8 天神地区での滞在時間

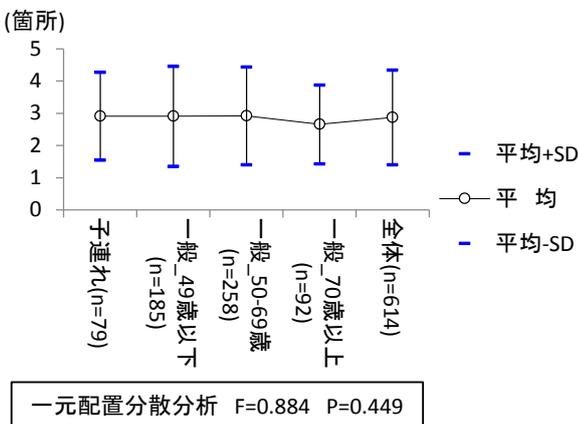


図-9 天神地区での回遊数

表-2 回遊順序別の訪問目的(選択率)

1箇所目	買物	食事	娯楽	休憩
子連れ(n=24)	54.2%	12.5%	12.5%	0.0%
一般_49歳以下(n=45)	60.0%	13.3%	4.4%	0.0%
一般_50-69歳(n=62)	66.1%	22.6%	6.5%	4.8%
一般_70歳以上(n=29)	58.6%	34.5%	6.9%	6.9%
全体(n=160)	61.3%	20.6%	6.9%	3.1%
P値	0.743	0.113	0.655	0.242

2箇所目	買物	食事	娯楽	休憩
子連れ(n=24)	37.5%	12.5%	25.0%	8.3%
一般_49歳以下(n=45)	71.1%	15.6%	4.4%	2.2%
一般_50-69歳(n=62)	66.1%	19.4%	4.8%	8.1%
一般_70歳以上(n=29)	62.1%	20.7%	3.4%	6.9%
全体(n=160)	62.5%	17.5%	7.5%	6.3%
P値	0.043	0.829	0.006	0.617

3箇所目	買物	食事	娯楽	休憩
子連れ(n=24)	54.2%	16.7%	20.8%	20.8%
一般_49歳以下(n=45)	64.4%	22.2%	0.0%	6.7%
一般_50-69歳(n=62)	72.6%	11.3%	3.2%	3.2%
一般_70歳以上(n=29)	69.0%	6.9%	10.3%	3.4%
全体(n=160)	66.9%	14.4%	6.3%	6.9%
P値	0.417	0.246	0.004	0.028

残差分析: 赤字+ボールド1%有意水準、赤字のみ5%有意水準

車交通量が多いにも関わらず歩道は十分には広くなく、子連れでは歩きにくいことが理由であると考えられる。反対に、百貨店のあるエリア番号12については49歳以下の一般来街者の選択率が低い一方で、子連れ来街者の選択率は統計的に低くはないことが示されている。このエリアを占める博多大丸が百貨店であることからそもそも若年層ほど訪れない傾向にあるものと考えられるが、本エリアに含まれる広場では各種イベントが催されたり、百貨店内には子供の遊び場を備えた子連れ向けのフロアがあることもあって、子連れ来街者については統計的に低くはならなかったものと考えられる。そして、古くからの商店街のあるエリア番号8については年齢層が低いほど選択率が低くなっており、子連れ来街者であっても一般来街者であっても同様であった。反対に若者向けの商業施設が集積しているエリア番号14については年齢層が低いほど選択率が高くなっており、こちらも子連れ来街者であっても一般来街者であっても同様であった。これらエリアについては、49歳以下の一般来街者と同様の選択傾向にあったことから、子連れであるか否かではなく、年齢による選好の差が反映されたエリアであると考えられる。

4. 子連れ来街者と一般来街者の満足度の違い

(1) 天神地区における回遊に対する満足度

次いで本章では、子連れ来街者と一般来街者の意識面の違いを明らかにし、子連れ来街者の満足度を高めるための方策について検討する。まず、天神地区を回遊しての満足度について尋ね、あわせて残差分析を行った結果を図-11に示す。その結果、どのグループでも満足度は高く、多くの来街者が天神地区での回遊に満足できているといえる。しかし、残差分析の結果では特に子連れ来街者の満足しているとの割合が少なく、やや不満・不満との回答割合が高くなっている。49歳以下の一般来街者にはそのような傾向が見られていないことから、子供を連れて回遊していることに起因する不満要因があるものと考えられる。

(2) 娯楽・休憩施設に対する満足度とその理由

そこで、子連れは娯楽や休憩を目的とした回遊を多く行っていることが前章までに示されていることから、子連れ来街者に対してはこれらに対する満足度について詳細に尋ねた。子供を楽しませるためのイベントや施設、設備等に対する満足度（子供の娯楽）、子供を休憩させるためのスペースや施設、設備等に対する満足度（子供

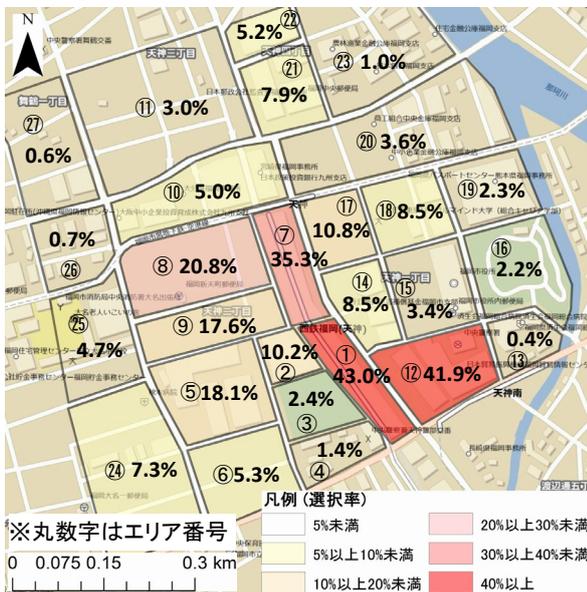


図-10 全サンプルでの訪問エリア（選択率）

エリア番号	③	⑥	⑧	⑫	⑭
子連れ(n=89)	6.7%	6.7%	10.1%	34.8%	14.6%
一般_49歳以下(n=221)	3.6%	9.0%	15.8%	33.9%	11.8%
一般_50-69歳(n=285)	0.7%	2.8%	23.2%	47.7%	6.7%
一般_70歳以上(n=102)	1.0%	2.9%	34.3%	49.0%	1.0%
全体(n=697)	2.4%	5.3%	20.8%	41.9%	8.5%
P値	0.005	0.011	0.000	0.003	0.001

残差分析: 赤字+ボールド1%有意水準、赤字のみ5%有意水準

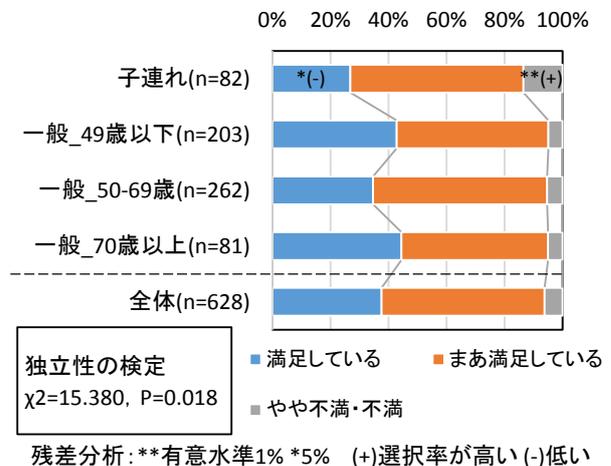


図-11 天神地区を回遊しての総合満足度

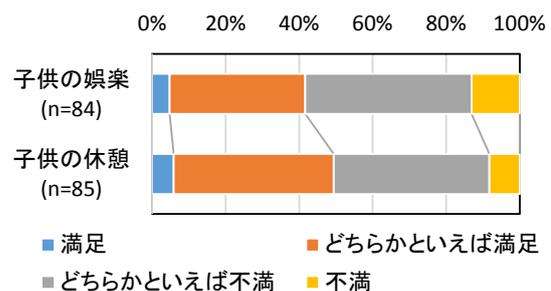


図-12 天神地区の子供の娯楽・休憩施設への満足度

の休憩) についてそれぞれ尋ねた結果を図-12に示す。図より、満足・どちらかといえば満足との回答割合が4~5割となっており、半数以上が娯楽、休憩に不満があるとの結果になっていた。

そこで、この回答理由について自由記述形式で尋ねており、天神地区での子供の娯楽に対する不満理由について整理した結果を図-13に、天神地区での子供の休憩に対する不満理由について整理した結果を図-14に示す。子供の娯楽については、子供向けの遊び場・施設が少ないことが最も多く挙げられており、次いでイベントの少なさを指摘する意見が見られる。子供の休憩については、休憩場所が子連れには利用しにくいことや、休憩スペースが少ないことが挙げられていた。子供の娯楽や休憩に対する不満理由として施設の少なさ等のハード面を指摘する意見が多く見られており、今後子連れの満足度を高めていくためには、都心部においても子供が回遊中に遊べる場所あるいは子供連れでもゆっくり休憩できる場所を確保していくことが必要であろう。

5. おわりに

本研究では、子連れ来街者の回遊特性を明らかにするため天神地区を訪れた日の回遊行動を尋ね、子連れ来街者と一般来街者との比較を行った。以下に得られた知見

を示す。

- ・ 天神地区への普段の来街頻度は、子連れ来街者は一般来街者と比較して低い。また来街は自家用車の利用が一般来街者よりも多く、バスの利用は少ない。
- ・ 天神地区に到着した時間については、一般来街者と差は見られていない。一方で、天神地区から出発する時間については差が見られ、子連れ来街者については14時がピーク時間帯となっていた。また、滞在時間については3~4時間が最も多く、同年齢層の一般来街者と比べて滞在時間は短い。
- ・ 天神地区内で訪れた場所の数については一般来街者と比べて差は見られないが、訪問目的について差が見られ、子連れ来街者は回遊の中で娯楽や休憩を目的とした回遊も行っていた。また訪れる場所の違いも見られ、特に子連れは公園を訪れる割合が高くなっている一方で、若者向けのエリアであっても子連れでは歩きにくいエリアについては同年齢層の一般来街者ほど訪れられていない。
- ・ 天神地区を回遊しての総合満足度については、子連れ来街者の方が低くなっていた。さらに子供の娯楽や休憩施設についての満足度について尋ねた結果では半数以上が不満と回答があり、子供向けの娯楽施設や休憩施設の不足を指摘する意見が見られた。

今後は、子連れ来街者の総合満足度を高める要因や現在子連れ来街者が娯楽あるいは休憩目的で訪れているエリア等について詳細に明らかにしていきたいと考えている。

謝辞: 本アンケートデータのとりまとめや集計においては、福岡大学工学部卒業生の川崎万太郎氏にご協力いただいた。また調査の実施に際しては、We Love天神協議会のご協力を得ている。ここに記し謝意を表する。

参考文献

- 1) 新福綾乃, 十代田朗, 津々見崇: 乳幼児を伴う外出行動の実態に関する研究~東京・自由が丘及び代官山におけるケーススタディ~, 都市計画論文集, Vol44, No3, pp.367-372, 2009.
- 2) 大森宣暁, 谷口綾子, 真鍋陸太郎, 寺内義典, 青野貞康: 子育て中の女性の外出行動とバリアに対する意識に関する研究-首都圏在住の乳幼児を持つ母親を対象として-, 都市計画論文集, Vol.46, No.3, pp.259-264, 2011.
- 3) 辰巳浩, 堤香代子, 藤林航, 吉城秀治: 地方都市における公共交通等での乳幼児連れ利用者の行動に関する意識, 交通工学論文集(特集号), Vol1, pp.A_179-A_186, 2015.
- 4) 福岡市: 福岡市都市計画マスタープラン, 2014.

(?????.? 受付)

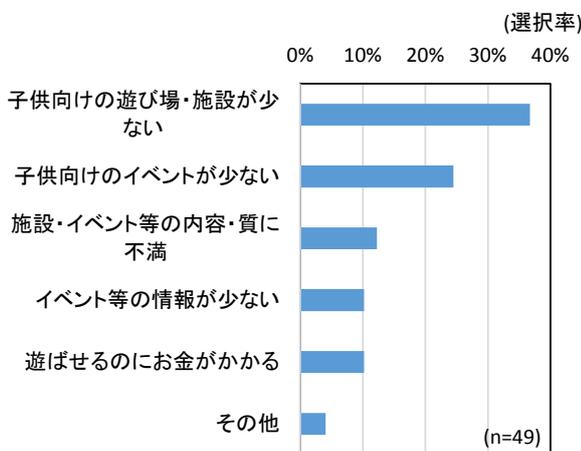


図-13 天神地区における子供の娯楽に対する不満理由

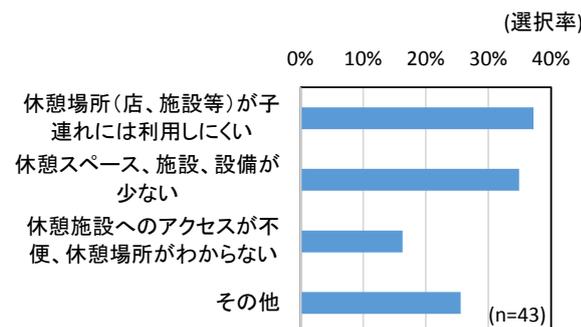


図-14 天神地区における子供の休憩に対する不満理由